

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月18日実施)	総合評価 (3月11日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	・自立と社会参加をめざして、各学部の教育内容の標準化に向けた取り組みを推進し、それぞれが系統性のある教育課程の編成や組織的な授業改善に取り組む。	①新学習指導要領についての理解を深め、適切に教育課程を編成できるように取り組む。 ②「自立活動」について理解を深めながら、授業改善につなげる。	①新学習指導要領について学部間での理解を図る。 ②「自立活動」についての研修会等を開催し、授業改善を図る	①新学習指導要領について学部間で理解を図ることができたか。 ②授業改善に生かすことができる研修会を実施することができたか。	①学部によって取組方法と状況にばらつきがあり、十分とは言えない。 否定的 34% ②個別指導計画作成時や研究授業等を通じた研修、テーマを取り上げた研修を行った。 否定的 40%	①学部で共有すること、理解するための方法を考える必要がある。 ②校内で行われている研修会を一概にまとめ、研修会の効果を点数化し評価する。研修会の見直しをする。	①「楽しく学校に通えている」の設問に「否定的2%」「わからない2%」がある。要因を分析し肯定的が100%になるよう取組む必要がある。 ②保護者評価 肯定的 97% 「発達障害について」「意思決定支援について」の研修を実施してほしい。	①学部間で取組状況にばらつきが見られるものの工夫をして取組めた。学部の中での共有を図る中、「理解できる授業になっているか」の視点も必要である。 ②コロナ禍で工夫しながら研修会を実施することはできたが、深めたいところの話し合いができていなかった。また、次年度は、「発達障害について」「意思決定支援について」の研修を行う。	①学部で共有する方法と日々の授業の振り返り「理解できる授業づくり」に取り組む。 ②実施する研修会を点数化して評価し、研修内容を見直す。また、助言のあった研修会を行う。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	・児童・生徒一人ひとりの個性を尊重し、よりよく生きるための多様な教育的ニーズに対応した支援、指導を組織的・連携的に行う。	①児童生徒一人ひとりの障がいの状態や発達段階を踏まえた、アセスメントの工夫・改善をしていく。 ②ICT 機器の活用や児童生徒に適した教材教具の開発などに積極的に取り組む。	①相談支援担当や専門職等と連携し、環境設定や指導方法についての工夫・改善を図る。 ②授業場面での活用の実際や教材作りの実践などの記録化を図る。	①相談支援担当や専門職等と連携し、環境設定や指導方法についての工夫・改善を図ることができたか。 ②授業場面での活用の実際や教材作りの実践などの記録化を図ることができたか。	①専門職を活用した研修会の実施、授業と一緒に参加し、助言をもらいながら改善を図った。 肯定的 81% ②オンラインやタブレットを活用した授業実践、作成した教材教具を記録化できた。 肯定的 89%	①担任支援会議を知的障害教育部門高等部、分教室も実施し、全クラス行う。 ②パソコンに対する2極化が起きている。研修会を行い、より身近なものにしていく。	①保護者評価 肯定的 93% 知的障害教育部門の保護者に専門職の存在を知ってもらい活用できると良い。周知の仕方を複数の発信方法で行うと良い。また、気軽に相談できる工夫が必要である。 ②沢山の研修会が行われている。コロナ禍、校内でできることを工夫して行っている。	①校内外支援については、引続き行っていく必要がある。また、専門職をより保護者の方知ってもらい利用しやすくなるための情報発信が必要である。 ②ICT 機器の活用や児童生徒に適した教材教具の開発に取り組めた。研修会を実施し、より活用できる力を身に付ける必要がある。	①保護者懇談会で、相談支援や専門職の利用について、話す機会を設ける。また、面談等で担任から、相談支援や専門職の利用のお知らせを配付する。 ②ICT 機器を活用した授業実践の研修会を行う。
3 進路指導・支援	・一人ひとりが将来をより豊かに自分らしく生きるために、障がいの特性や発達段階に応じた社会生活に移行できる進路指導・支援を行う。	①学部や学年進行に応じた段階的で系統的な進路指導・支援を行う。 ②進路について保護者の理解を図る。	①進路担当専任と各学部、各学年が連携し、個々の生徒にあった進路指導・支援を行う。 ②進路に関するお知らせを支援だよりやホームページ等で伝える。	①進路担当専任と各学部、各学年が連携し、個々の生徒にあった進路指導・支援を行うことができたか ②進路に関するお知らせを支援だよりやホームページ等で伝え、理解を図ることができたか。	①進路担当専任を講師にし、学習会を開いた。 否定的 30% ②学部の懇談会、進路面談等で進路について話をした。 ③支援だよりの中にも進路コーナーを設け、お知らせする回数を増やす。またわかりや	①高等部経験の人が少なく、理解を深めにくい。また、日頃の授業が卒業後の生活にどう結びついているか、意識する。(ex 指導略案に記入) ②支援だよりの中にも進路コーナーを設け、お知らせする回数を増やす。またわかりや	①小学部の段階から保護者に対して進路指導が行われていて良い。身近な所で、色々な人と触れ合い、知り合うことが大切である。 ②保護者評価 肯定的 76% コロナ禍でも工夫され進路指導が行われている。「わからない」の	①保護者懇談会等で進路学習会を行い段階的な進路学習はできた。進路学習会の内容を教員も理解し日頃の授業に活かす必要がある。 ②保護者や地域の方が求めているニーズをリサーチするとともに、学校から発信しているお便りの内容を整理する	①日頃行っている授業が「自立と社会参加」につながっていることを意識し、取り組む。また、保護者向け進路懇談会の内容を職員にも伝え共有する。 ②保護者や地域の方が求めているニーズをリサーチする。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月18日実施)	総合評価(3月11日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 共生社会の実現に向け、障がいのある子どもの理解者・支援者を増やすために地域とのつながりを広げ、深める教育活動を展開する。 	<p>①コミュニティスクールを活用し、地域との理解推進を図る。</p> <p>②地域の資源を活用し、障がいのある子どもの理解者を増やす。</p>	<p>①コミュニティスクールの部会を活用する。</p> <p>②地域にある資源を掘り起こす。</p>	<p>①コミュニティスクールの部会を活用し地域との理解推進を図ることができたか。</p> <p>②地域にある資源を掘り起こすことができたか。</p>	<p>①コミュニティスクールを予定通り実施でなかったため、理解推進を図ることはできなかった。否定的38%わからない27%</p> <p>②例年実施していた地域との交流は、ほとんど実施することができなかった。否定的46%わからない21%</p>	<p>①部会構成員を検討し、場合によっては、追加する。</p> <p>②例年行っている地域資源を活用した交流は継続できる資源を探す。</p>	<p>①②保護者評価 肯定的62% わからない26% コミュニティスクールの部会の構成委員について見直しが必要である。顔の見える関係づくりが大切である。</p> <p>②保護者向けと教員向けアンケートの設問の意図がわかりにくいため回答しにくかった。学校にある資源を地域にお知らせしていく必要がある。</p>	<p>①福祉避難所部会は、構成員に行政及び地域の方を入れて実施したことで、学校の状況を伝えることができた。切れ目ない支援部会については、構成委員の見直しをする必要がある。</p> <p>②コロナ禍で例年通りの取組は実施できなかったが、可能な範囲で実施できた。地域の方との交流の様子を全職員・保護者にお知らせするとともに、学校にある資源を地域の方に情報発信していく必要がある。</p>	<p>①福祉避難所部会は、定期的にメンバーを拡大して行う。切れ目ない支援部会の構成員を見直す。</p> <p>②地域資源と学校資源を一覧表にしてまとめ、職員間で共有するとともに、保護者や地域に発信する。</p>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事防止に努め、同僚性の良質化を図り、職員一人ひとりが当事者意識を持ち、不祥事ゼロをめざす。 児童生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備を推進する。 教員の働き方改革を推進するための教員の意識改革を図る。 	<p>①職員一人ひとりが当事者意識を持ち、不祥事ゼロをめざす。</p> <p>②年齢や児童生徒の状況に応じた防災教育を計画的に行う。</p> <p>③長時間勤務を是正する。</p>	<p>①不祥事ゼロプログラムを作成し、全職員で取り組む。</p> <p>②避難訓練やシェイクアウト訓練等を通して、事前事後学習を行う。</p> <p>③週に1回は、「ノー残業デー」を設定する。</p>	<p>①不祥事ゼロプログラムを作成し、全職員で取り組むことができたか。</p> <p>②避難訓練やシェイクアウト訓練等を通して、事前事後学習を行うことができたか。</p> <p>③「ノー残業デー」を何回実施することができたか。</p>	<p>①学部ごとに実施し全員で取り組むことができた。</p> <p>②事前事後学習はあまり実施しなかったが、マスクの着用や、防災センターへの校外学習などを行った。否定的49%</p> <p>③毎週水曜日に実施し、時間を意識して仕事に取り組めた。肯定的81%</p>	<p>①敬称教育を引きつづき行い、不祥事ゼロプログラムに全職員で取り組む。</p> <p>②コロナウイルス感染症対策を考慮した訓練を行い、実績を積み上げていく。</p> <p>③仕事をより効率化するために、授業や学部、校務のデータを管理する。</p>	<p>保護者評価 ①肯定的93%と97% 「敬称教育」の成果が表れている。「敬称」で呼ばれることで、大事にされていることを子ども達は理解する。</p> <p>②肯定的81% わからない16% 継続して取り組んでほしい。</p> <p>③継続して取り組んでほしい。</p>	<p>①敬称教育は、成果が表れてきているが、100%になっていない。ひき続き実施していく必要がある。また、不祥事ゼロプログラムを学部ごとに実施したが、全体で十分共有できていない。</p> <p>②コロナウイルス感染症対策を考慮した避難訓練の積み重ね、必要な対策を積み上げていく必要がある。</p> <p>③時間を意識して仕事に取り組んでいるが、データの管理と整理に取り組む必要がある。</p>	<p>①これまで通り毎月の企画会議や職員会議で事故防止に向けて取り組む。</p> <p>②訓練実施後の反省をもとに改善を図るとともに、必要な物品を揃えていく。</p> <p>③学部、グループでデータ管理状況を把握する。</p>